

(様式2 2)

(参考)

功 績 調 書 (団 体)

1 団体名称、所在地、代表者等

ふりがな

団 体 名 村

ふりがな

所 在 地 〒

県 郡 村 番 地

ふりがな

代表者肩書氏名 村 長

結成(設立、創立) 年 月 日(市町村の場合は不要)

郵便物送付先 所在地住所と同じ

村 課

2 表 彰 歴

平成 年 ふれあいの森林づくり表彰
国土緑化推進機構会長

3 功績の概要

同村は、 県の東北端、 川の最上流に位置し、周囲は 百m以上の高峰がそびえるなど急峻な渓谷型の地形をなしている。

総面積は ha、その内森林面積は haで林野率が %、うち民有林面積は ha(%)を占め、人工林率が %に達するなど、県下有数の林業地域となっている。人工林は、間伐などの手入れが必要な 年生以下の林分が主であるが、過疎化・高齢化が急速に進行し、森林づくりが困難な状況になってきている。

こうしたなか、昭和 年から「ふるさとの村」を媒介とした都市住民との交流活動が、平成 年からは「桜ともみじの里づくり運動」による郷土の美化・緑化運動が開始され、平成 年に発生した山林火災の跡地復旧にも、これらの活動を通じて培われた流域住民の森林づくりの意識が活かされた。

特に、その功績が顕著であると認められるものは次のとおりである。

(1) 森林災害の復旧を通じ流域住民の森林保護意識等の醸成に貢献

同村では、平成 年 月に起こった山林火災により民有林・国有林あわせて h aが焼失し、年 月には、台風 号が被災地を襲い国道の寸断、村道の橋の流出など2次被害を引き起こし、土砂崩壊防止等の森林の有する機能が再認識された。このようなことから、村・森林組合を中心に開始された復旧作業に村民一人ひとりが

緑の再生へと力を結集し、ケヤキやヤマザクラなどの広葉樹を植樹して支援し、さらに、支援活動の輪は川下の人々へ広がり、緑化活動を通じた地域住民と都市住民の交流の拡大を図るとともに、流域住民の森林保護意識の高揚、緑化思想の普及啓発にも大きな成果をあげている。

(2) 都市住民参加の森林づくり等に貢献

昭和 年「緑のふるさと」・「心のふるさと」をキャッチフレーズとして、スギ・ヒノキ 年生の村有林 haを対象に「ふるさとの森」事業をスタートさせ、そのオーナーを募集するとともに、ふるさと小包の送付、紅葉の名所への招待ふるさとの森林探索への参加要請等、地元住民とのコミュニケーションの機会をつくり、都市住民の参加による森林づくりと緑化意識の高揚に貢献している。

また、平成 年からは、交流による上下流域の相互理解や森林学習、木工体験、緑化の推進と、森林と共生する術の習得などを目的とした「アクア・リプル・ネットワーク構想」による交流事業が開始され、都市住民の参加による緑化や森林と水を媒体とした交流を推進し、緑化思想の普及啓発に大きく貢献している。

(3) 緑化推進を担う若者技術者の養成

平成 年に(財) 林業育成基金が設立(基金総額 億 千万円、村出資)され、その益金で 森林組合内に「 グリーンレンジャー」として若者を採用して、緑の再生と森林保全を担う若者技術者を養成している。

(4) 地域の組織化による緑化・美化の推進に貢献

観光客を美しいサクラとモミジで出迎えるため、平成 年に同村全集落と関係団体からなる「 村桜ともみじの里づくり協議会」を結成し、さくらとモミジの苗木 万本を育て、国道沿いなどに植栽したほか、樹木の管理、地域の美化・清掃をそれぞれの地区が集落行事の一つとして行い、緑化・美化の推進に貢献している。